

▼救急車を呼んだ方がいいのか、自分で連れて行っても大丈夫か迷ったら
おとな救急電話相談 # 7119 子ども救急電話相談 # 8000
〔月～土〕午後 5 時 30 分～翌朝午前 9 時
〔日・祝日・年末年始〕午前 9 時～翌朝 9 時（相談無料。通話料は利用者負担）

問題は医師不足。 根本的な解決のために…

医師の総数自体は減っていないにも関わらず、なぜ地方からは、医師が減ってしまったのでしょうか。



医師数は91人です。
これは人口規模に照らし合わせると全国平均の半分以下。市内の医師は少人数で、石岡市はもとより、小美玉市、かすみがうら市などの住民を診ています。

9月、県では深刻な医師不足を解決すべく、産婦人科と小児科の医師を最優先で確保する病院を5つ選定。2年以内の医師確保を目指し、動き出しました。その一つ、土浦協同病院は、土浦保健医療

茨城県の10万人あたりの医師数は全国ワースト2位。そして石岡市内の医師数は91人です。

これは人口規模に照らし合わせると全国平均の半分以下。市内の医師は少人数で、石岡市はもとより、小美玉市、かすみがうら市などの住民を診ています。

9月、県では深刻な医師不足を解決すべく、産婦人科と小児科の医師を最優先で確保する病院を5つ選定。2年以内の医師確保を目指し、動き出しました。その一つ、土浦協同病院は、土浦保健医療

短期的な解決策（案）

1 医師確保等への補助金

▶医師の確保、研修、労働環境改善の補助金を出す。

2 医療機関への財政支援

▶救急や周産期医療など不採算医療を担う公的病院に、人員確保や施設整備などの補助を行う。

中・長期的な解決策（案）

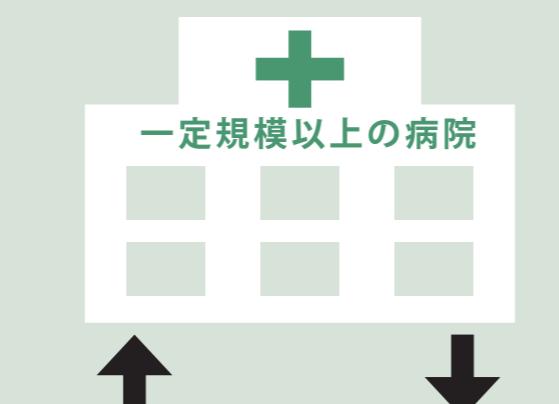
3 医学生への修学資金貸与

▶卒業後は市内病院で働くことを条件に医学生に修学資金を貸与する。

4 大学医学部への寄附講座

▶小児科や周産期、救急などの研究を行う大学医学部に寄附し、研究活動の一環として地域に医師を派遣してもらうシステム。

持続可能な地域医療体制の構築のためには 一定規模以上の病院整備が必要です



↑
医科大学
学生の
研修派遣

↓
地域の開業医
高機能、高度医
療を学んだ後、
地域の開業医へ

一定以上とは、医学生の受け入れや、研修医を育成することができる指導医がいて、設備があることをいいます。



地域医療が抱える課題

1 休日・夜間の緊急診療の限界

■ 石岡市医師会病院内で行う内科と小児科の休日夜間診療は、10人ほどの医師で対応していますが、医師の高齢化により限界がきています。

2 産科・小児科の医師不足

■ 小児科の診療を行う医療機関は石岡市で10件、かすみがうら市で4件、小美玉市で9件。

現在、市内で出産できる医療機関はゼロです。

3 平均年齢 63 歳。医師の高齢化

■ 市内 39 の病院が加入する石岡市医師会の平均年齢は 63 歳です。また医師だけでなく看護師や介護士なども非常に不足しています。

ください。
あなたの力を貸して
有償ボランティアの住
民が行い、この制度は、
暮らしの中の「困った」
をお互いの善意と協力
で解決するものです。
しかし現在、生活サ
ポートが足りていま
せん。生活サポートとは
生活サポートとは
事前登録制で利用料
がかかるほか、医療機
関への送迎などのサ
ービスを受けるには条件
があります。

どこが問題？ 石岡の地域医療

「出産できる医療機関がない」「救急を受け付けてくれる病院がない」
石岡の地域医療の一番の問題は、
どこにあるのでしょうか？

茨

城県の10万人あたりの医師数は全国ワースト2位。そして石岡市内の医師数は91人です。

茨城県（二次保健医療圏）の中核病院です。県ではこの二次医療圏を中心

に、地域医療の計画策定を進めています。

「上の子を病院に連れて行く3時間だけ、下の子を見てほしい」、「病院への通院手段がない」という時に、市内に勤いてくれる医師を呼ぶにはどうしたらいいのか。

6月に今泉市長が座長となり、市民と医師会、小美玉市、かすみがうら市の市長・議長を交えた医療懇談会を立ち上げました。10月末までに3回の懇談会を行い、地域医療の課題について話し合ってきました（詳細は広報石岡9月15日号参照）。

「病院への通院手段がない」という時に、市内に勤いてくれる医師を呼ぶにはどうしたらいいのか。

4